

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コクリンダイガクホウジンキョウトキョウイクダイガク 国立大学法人京都教育大学								
フリガナ大学の名称	キョウトキョウイクダイガクダイガクイン 京都教育大学大学院 (Graduate School of Kyoto University of Education)								
大学本部の位置	京都府京都市伏見区深草藤森町1番地								
大学の目的	連合教職実践研究科は、学部における教員養成教育と現職教員の教職経験の上に、教育の理論と教職実践を深く追究させることにより、教職に関する高度専門的な知識と実践的指導力を統合的に有する教員の養成を目的とする。								
新設学部等の目的	連合教職実践研究科では、教育及び教科の理論と教職の実践との往還を通じて、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有する教員を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	連合教職実践研究科 [The United Graduate school of Professional Teacher Development]  教職実践専攻 [Program of Professional Teacher Development]  計	2年	95人	—年次人	190人	教職修士（専門職） [Master of Education (Professional Degree)]	令和4年4月第1年次	京都府京都市伏見区深草藤森町1番地	
		<p>○学生募集の停止</p> <p>教育学研究科</p> <p>    <u>学校教育専攻（廃止）</u> (△17) (令和4年4月学生募集停止)</p> <p>    <u>障害児教育専攻（廃止）</u> (△5) (令和4年4月学生募集停止)</p> <p>    <u>教科教育専攻（廃止）</u> (△35) (令和4年4月学生募集停止)</p> <p>連合教職実践研究科</p> <p>    <u>教職実践専攻（廃止）</u> (△60) (令和4年4月学生募集停止)</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	連合教職実践研究科	講義 0科目	演習 135科目	実験・実習 4科目	計 139科目	46単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	連合教職実践研究科	28人 (28)	19人 (19)	1人 (1)	0人 (0)	48人 (48)	0人 (0)	57人 (57)
	区分	計	28 (28)	19 (19)	1 (1)	0 (0)	48 (48)	0 (0)	57 (57)
	既設	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
概要	計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
合計		28 (28)	19 (19)	1 (1)	0 (0)	48 (48)	0 (0)	57 (57)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		68 (68)	28 (28)	96 (96)					
	技 術 職 員		9 (9)	4 (4)	13 (13)					
	函 書 館 専 門 職 員		3 (3)	3 (3)	6 (6)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	18 (18)	18 (18)					
	計		80 (80)	53 (53)	133 (133)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	102,778㎡	0㎡	0㎡	102,778㎡	大学全体				
	運 動 場 用 地	37,946㎡	0㎡	0㎡	37,946㎡					
	小 計	140,724㎡	0㎡	0㎡	140,724㎡					
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡					
	合 計	140,724㎡	0㎡	0㎡	140,724㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		大学全体			
		40,498㎡ ( 40,498㎡)	0㎡ ( 0㎡)	0㎡ ( 0㎡)	40,498㎡ ( 40,498㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	43室	71室	65室	3室 (補助職員 1人)	1室 (補助職員 0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称 連合教職実践研究科		室 数	41 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での特定不能なため、大学全体の数		
	連合教職実践研究科	454,392 [73,187] (454,392 [73,187])	11,367 [5,832] (11,367 [5,832])	4,597 [4,597] (4,597 [4,597])	3,546 (3,546)	7,359 (7,359)	0 ( 0 )			
	計	454,392 [73,187] (454,392 [73,187])	11,367 [5,832] (11,367 [5,832])	4,597 [4,597] (4,597 [4,597])	3,546 (3,546)	7,359 (7,359)	0 ( 0 )			
図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	4,482㎡		285		402,000					
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	1,417㎡		野 球 場 1 面 テニスコート 5 面							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交付金）による	
		教員1人当り研究費等								
		共同研究費等								
		図書購入費								
	設備購入費									
	学生1人当り納付金	第1年次 千円	第2年次 千円	第3年次 千円	第4年次 千円	第5年次 千円	第6年次 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要										
字 筈	大 学 の 名 称		京都教育大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	教育学部	年	人	年次人	人		倍			
	学校教育教員養成課程	4	300	—	1,200	学士（教育学）	1.07	昭和24年度 平成18年度	京都府京都市伏見区深草藤森町1番地	
	教育学研究科									
	学校教育専攻	2	17	—	34	修士（教育学）	0.67	平成2年度	京都府京都市伏見区深草藤森町1番地	
障害児教育専攻	2	5	—	10	修士（教育学）	0.80	平成2年度			
教科教育専攻	2	35	—	70	修士（教育学）	0.91	平成2年度			
連合教職実践研究科										
教職実践専攻	2	60	—	120	教職修士（専門職）	0.86	平成20年度 平成31年度	京都府京都市伏見区深草藤森町1番地		

附属施設の概要	<p>名称：附属幼稚園  目的：幼児に対する保育  大学における幼児の保育に関する研究への協力  学生の教育実習の実施  所在地：京都市伏見区桃山井伊掃部東町16番地  設置年月：昭和26年3月  規模等：土地2,415㎡ 建物 870㎡</p>
	<p>名称：附属桃山小学校  目的：児童に対する教育  大学における初等教育に関する研究への協力  学生の教育実習の実施  所在地：京都市伏見区桃山筒井伊賀東町46番地  設置年月：昭和26年3月  規模等：土地12,296㎡ 建物 5,771㎡</p>
	<p>名称：附属桃山中学校  目的：生徒に対する教育  大学における中等教育に関する研究への協力  学生の教育実習の実施  所在地：京都市伏見区桃山井伊掃部東町16番地  設置年月：昭和26年3月  規模等：土地22,091㎡ 建物 6,212㎡</p>
	<p>名称：附属京都小中学校  目的：児童・生徒に対する教育  大学における初等・中等教育に関する研究への協力  学生の教育実習の実施  所在地：京都市北区紫野東御所田町37番地（西エリア 初等部）  京都市北区小山南大野町1番地（東エリア 中・高等部）  設置年月：平成29年4月  規模等：土地37,460㎡ 建物14,445㎡</p>
	<p>名称：附属高等学校  目的：生徒に対する教育  大学における中等教育に関する研究への協力  学生の教育実習の実施  所在地：京都市伏見区深草越後屋敷町111番地  設置年月：昭和40年4月  規模等：土地37,245㎡ 建物 7,968㎡</p>
	<p>名称：附属特別支援学校  目的：児童・生徒に対する教育  大学における特別支援教育に関する研究への協力  学生の教育実習の実施  所在地：京都市伏見区深草大亀谷大山町90番地  設置年月：昭和44年4月  規模等：土地34,083㎡ 建物 4,327㎡</p>
	<p>名称：教育創生リージョナルセンター機構 教職キャリア高度化センター  目的：教員養成段階から教職キャリアを積む過程全体の支援並びに支援に関する研究開発を行い、教員養成・研修の高度化を推進すること  所在地：京都市伏見区深草藤森町1番地  設置年月：平成30年4月  規模等：建物1,529㎡</p>
	<p>名称：教育創生リージョナルセンター機構 総合教育臨床センター  目的：特別支援教育並びに教育臨床心理に関する事業を推進すること  所在地：京都市伏見区深草藤森町1番地  設置年月：平成31年4月  規模等：197㎡</p>
	<p>名称：環境教育実践センター  目的：本学における環境教育を推進すること  所在地：京都市伏見区深草越後屋敷町112番地  設置年月：平成4年4月  規模等：建物793㎡</p>
	<p>名称：情報処理センター  目的：全学の共同利用施設として、学術研究、情報処理教育及びその他の情報処理に資すること  所在地：京都市伏見区深草藤森町1番地  設置年月：平成6年2月  規模等：建物470㎡</p>
<p>名称：保健管理センター  目的：本学の保健管理に関する専門的業務を一体的に行い、もって学生及び教職員の心身の健康の保持増進を図ること  所在地：京都市伏見区深草藤森町1番地  設置年月：昭和50年4月  規模等：建物304㎡</p>	

## 京都教育大学 設置申請に係わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>京都教育大学</b>				<b>京都教育大学</b>				
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	300		- 1,200	学校教育教員養成課程	300		- 1,200	
計	300		- 1,200	計	300		- 1,200	
<b>京都教育大学大学院</b>				<b>京都教育大学大学院</b>				
大学院教育学研究科				大学院教育学研究科				
学校教育専攻(M)	17		- 34	<u>学校教育専攻(M)</u>	<u>0</u>		<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
障害児教育専攻(M)	5		- 10	<u>障害児教育専攻(M)</u>	<u>0</u>		<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
教科教育専攻(M)	35		- 70	<u>教科教育専攻(M)</u>	<u>0</u>		<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
大学院連合教職実践研究科				大学院連合教職実践研究科				
教職実践専攻	60		- 120	教職実践専攻	<u>0</u>		<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
				教職実践専攻	<u>95</u>		<u>190</u>	研究科の専攻の設置(設置届出)
計	117		- 234	計	95		- 190	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(連合教職実践研究科 教職実践専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 科目	(1) 教育課程の編成・実施に関する領域	カリキュラムの開発と実践A	1・2前	2			○	1							
		カリキュラムの開発と実践B	1・2前	2			○	1							
		カリキュラムの開発と実践C	1・2後	2			○	3	1						オムニバス・共同
	(2) 教科等の実践的な指導方法に関する領域	授業デザインとICT活用A	1・2後	2			○				1			兼1	オムニバス・共同（一部）
		授業デザインとICT活用C	1・2前	2			○	5	2					兼1	オムニバス・共同
		教科指導実践演習A	1・2前	2			○	2	1					兼1	共同
		教科指導実践演習B	1・2前	2			○							兼1	共同
		教科指導実践演習C	1・2後	2			○	1	3					兼1	共同
		保育内容指導法演習	1・2後	2			○	1	1					兼1	オムニバス・共同
	(3) 生徒指導、教育相談に関する領域	生徒指導・教育相談の理論と実践A	1・2前	2			○	1							
		生徒指導・教育相談の理論と実践B	1・2前	2			○		2						共同
		生徒指導・教育相談の理論と実践C	1・2前	2			○	2	2					兼1	オムニバス・共同
		生徒指導・教育相談実践演習	1・2後	2			○		3						共同
		幼児期の教育相談	1・2後	2			○		1					兼1	共同
	(4) 学級経営、学校経営に関する領域	学級経営の実践と課題A	1・2後	2			○	1							
		学級経営の実践と課題B	1・2前	2			○	1							
		学級経営の実践と課題C	1・2前	2			○	1	2						共同
		学校づくりと学校経営A	1・2後	2			○	1						兼1	共同
		学校づくりと学校経営B	1・2後	2			○	2							共同
		学校づくりと学校経営C	1・2後	2			○	2							共同
幼児期におけるクラスづくりと園づくり		1・2後	2			○	1	1						共同	
(5) 学校教育と教員の在り方に関する領域	現代社会と学校教育	1・2前	2			○	1	2						共同	
	教員の職務と役割	1・2後	2			○	2							共同	
	社会と学校教育・教員における現代的課題	1・2前	2			○	1	1					兼2	オムニバス・共同	
	小計（24科目）	—	48			—	19	13	1				兼9	—	
教職専門実習	学校臨床専門実習Ⅰ	1通	3			○	9	5	1				兼4	共同	
	学校臨床専門実習Ⅱ	1・2通	7			○	9	5	1				兼4	共同	
	教科研究専門実習Ⅰ	1通	3			○	19	14						共同	
	教科研究専門実習Ⅱ	2通	7			○	19	14						共同	
	小計（4科目）	—	20			—	28	19	1				兼4	—	
コ ー ス 必 修 科 目	学校臨床力高度化系 初任期教員養成コース	特別支援教育の理論と実践	1・2後	2			○	2					兼1	オムニバス	
		現代的教育課題の教材化と授業実践	1・2後	2			○		1						
		学校臨床とかかわり合う力A	1・2後	2			○		1				兼1	共同	
		学校における心理教育	1・2前	2			○		1						
		小計（4科目）	—	8			—	2	3	0				兼2	—
	学校臨床力高度化系 中核教員・リーダー教員養成コース	学校臨床とかかわり合う力B	1・2前	2			○		1					兼1	共同
		現代の公教育と人間形成の課題	1・2前	2			○	1							
		小計（2科目）	—	4			—	1	1	0				兼1	—
	学校臨床力高度化系 コース共通	省察実践研究Ⅰ	1通	2			○	8	4	1				兼4	共同
		省察実践研究Ⅱ	2通	2			○	8	4	1				兼4	共同
小計（2科目）		—	4			—	8	4	1				兼4	—	
教 科 研 究 開 発 高 度 化 系	人間発達探究コース	人間発達セミナー	1・2前	2			○	4	1				兼3	オムニバス・共同（一部）	
		認知発達と学習の心理学	1・2後	2			○		1						
		特別支援教育の理論と実践	1・2後	2			○	2						兼1	オムニバス
		子育て支援の理論	1・2後	2			○							兼1	
		小計（4科目）	—	8			—	6	1	0				兼5	—
	教科学習探究コース	教科カリキュラム開発セミナー	1・2前	2			○	3							オムニバス・共同
		教科授業開発セミナー	1・2後	2			○	3							オムニバス・共同
		小計（2科目）	—	4			—	4	0	0					—
	教科研究開発高度化系 コース共通	教育実践研究セミナー	1・2前	2			○	1	1					兼3	オムニバス・共同（一部）
		実践課題研究Ⅰ	1通	2			○	16	7						共同
実践課題研究Ⅱ		2通	2			○	16	7						共同	
小計（3科目）		—	6			—	16	7	0				兼3	—	
	小計（17科目）	—	34			—	24	12	1				兼12	—	

コース 選択科目	学校臨床力高度化系	初任期教員養成コース	授業コミュニケーション論	1・2前	2			○			1							兼1	共同		
			授業研究の理論と実践	1・2前	2			○			1	1								兼1	共同
			授業力高度化演習	1・2後	2			○			2	1	1							兼1	共同
			小計 (3科目)	—	6			—			3	2	1							兼1	—
		中核教員・リーダー教員養成コース	教育政策と教育行政・学校経営の課題	1・2前	2			○			1										
	学校・教員の裁量権と法的責任		1・2後	2			○			1											
	学校づくりとリーダーシップ		1・2後	2			○			1											
	学校組織改善の理論と手法		1・2前	2			○												兼1		
	教職員の意識と成長		1・2前	2			○												兼1		
	カリキュラムマネジメント		1・2後	2			○			2									兼1	共同	
	小計 (6科目)	—	12			—			4	0	0							兼1	—		
	学校臨床力高度化系コース共通	学校におけるグループダイナミクス演習 I	学校におけるグループダイナミクス演習 II	1・2後	2			○			1										
			危機管理のための事例演習	1・2後	2			○			1										
			子ども理解と臨床技法	1・2前	2			○				1								兼1	
			小計 (4科目)	—	8			—			0	2	0							兼1	—
人間発達探究コース		幼小接続の理論と実践	1・2前	2			○			1											
	子育て支援の実践	1・2後	2			○			1												
小計 (2科目)	—	4			—			2	0	0								—			
教科 研究 開発 高度化系	教科学習探究コース	言語・文化セミナー	1・2前	2			○		1	1									オムニバス・共同 (一部)		
		公共・文化セミナー	1・2前	2			○		1	1									共同		
		数理自然・技術セミナー	1・2前	2			○		3										共同		
		健康・生活デザインセミナー	1・2前	2			○		1	1									兼8	オムニバス・共同 (一部)	
		芸術探究セミナー	1・2前	2			○			2										共同	
		国語科教育実践演習 ー日本語学ー	1・2前	2			○													兼1	
		国語科教育実践演習 ー近現代文学ー	1・2前	2			○													兼1	
		国語科教育実践演習 ー漢文学ー	1・2後	2			○													兼1	
		国語科教育実践演習 ー日本語教育学ー	1・2後	2			○													兼1	
		社会科教育実践演習 ー日本史ー	1・2前	2			○			1										兼1	
		社会科教育実践演習 ー西洋史ー	1・2後	2			○													兼1	
	社会科教育実践演習 ー近現代史ー	1・2前	2			○													兼1		
	社会科教育実践演習 ー地理ー	1・2前	2			○													兼1		
	社会科教育実践演習 ー法律ー	1・2前	2			○													兼1		
	社会科教育実践演習 ー政治ー	1・2前	2			○													兼1		
	社会科教育実践演習 ー社会学ー	1・2後	2			○													兼1		
	社会科教育実践演習 ー経済ー	1・2後	2			○													兼1		
	社会科教育実践演習 ー倫理ー	1・2後	2			○			1										兼1		
	数学科教育実践演習 ー解析ー	1・2前	2			○													兼1		
	数学科教育実践演習 ー応用数学ー	1・2後	2			○													兼1		
	理科教実践演習 ー科学教育ー	1・2前	2			○			1										兼1		
	理科教実践演習 ー分析化学ー	1・2前	2			○													兼1		
	理科教実践演習 ー有機化学ー	1・2後	2			○													兼1		
	理科教実践演習 ー動物分類形態学ー	1・2前	2			○													兼1		
	理科教実践演習 ー生態学ー	1・2後	2			○													兼1		
	理科教実践演習 ー植物進化形態学ー	1・2後	2			○													兼1		
	理科教実践演習 ー地質鉱物学ー	1・2前	2			○													兼1		
	音楽科教実践演習 ー声楽ー	1・2前	2			○													兼1		
	音楽科教実践演習 ー器楽ー	1・2前	2			○													兼1		
	音楽科教実践演習 ー伴奏ー	1・2後	2			○													兼1		
	音楽科教実践演習 ー鑑賞ー	1・2後	2			○													兼1		
	音楽科教実践演習 ー創作ー	1・2後	2			○													兼1		
	音楽科教実践演習 ー授業実践史ー	1・2前	2			○			1										兼1		
	美術科教実践演習 ーデザインー	1・2前	2			○													兼1		
	美術科教実践演習 ー工芸ー	1・2後	2			○													兼1		
	美術科教実践演習 ー美学・美術理論ー	1・2前	2			○				1											
	美術科教実践演習 ー書道ー	1・2後	2			○													兼1		
	保健体育科教実践演習 ー体育学ー	1・2前	2			○													兼1		
	保健体育科教実践演習 ー健康社会学ー	1・2前	2			○													兼1		
	保健体育科教実践演習 ー学校保健ー	1・2後	2			○													兼1		
	保健体育科教実践演習 ーバイオメカニクスー	1・2後	2			○				1									兼1		
	技術科教実践演習 ー電気ー	1・2前	2			○													兼1		
	技術科教実践演習 ー生物育成ー	1・2後	2			○													兼1		
	技術科教実践演習 ーシミュレーション情報ー	1・2前	2			○													兼1		
	技術科教実践演習 ー情報ネットワークー	1・2後	2			○													兼1		
	家庭科教実践演習 ー衣生活ー	1・2前	2			○													兼1		
	家庭科教実践演習 ー食生活ー	1・2後	2			○													兼1		
	家庭科教実践演習 ー住生活ー	1・2後	2			○													兼1		
	家庭科教実践演習 ー生活工学とICT教育ー	1・2前	2			○													兼1		
	英語科教実践演習 ー構文文法論ー	1・2前	2			○													兼1		
	英語科教実践演習 ーイギリス文学論ー	1・2前	2			○													兼1		
	英語科教実践演習 ー語彙指導ー	1・2後	2			○													兼1		
	小計 (52科目)	—	104			—				6	5	0							兼42	—	

教科研究開発高度化系 コース共通	授業力熟達の理論と課題	1・2前	2	○	1																		
	学校における道徳教育と道徳科	1・2後	2	○	1															兼1	オムニバス		
	子どもの臨床心理学的アセスメントと支援	1・2前	2	○		1																兼1	オムニバス
	発達障害の特性と基本的対応	1・2後	2	○																		兼3	オムニバス・共同（一部）
	教科内容構成論－国語科－	1・2前	2	○																		兼2	オムニバス
	教科内容構成論－社会科－	1・2前	2	○																		兼3	オムニバス
	教科内容構成論－数学科－	1・2前	2	○																		兼3	オムニバス
	教科内容構成論－理科－	1・2前	2	○		1																兼3	オムニバス・共同（一部）
	教科内容構成論－音楽科－	1・2前	2	○			1															兼5	オムニバス・共同（一部）
	教科内容構成論－美術科－	1・2前	2	○				1														兼4	オムニバス
	教科内容構成論－保健体育科－	1・2前	2	○																		兼2	共同
	教科内容構成論－技術科－	1・2前	2	○		1																兼4	オムニバス
	教科内容構成論－家庭科－	1・2前	2	○		1																兼2	オムニバス
	教科内容構成論－英語科－	1・2前	2	○		1																兼1	オムニバス
	教科内容教材論－国語科－	1・2後	2	○																		兼2	オムニバス・共同（一部）
	教科内容教材論－社会科－	1・2後	2	○																		兼4	オムニバス
	教科内容教材論－数学科－	1・2後	2	○																		兼1	オムニバス
	教科内容教材論－物理－	1・2後	2	○		1																	
	教科内容教材論－化学－	1・2後	2	○																		兼2	オムニバス・共同（一部）
	教科内容教材論－生物－	1・2後	2	○																		兼3	共同
	教科内容教材論－地学－	1・2後	2	○																		兼1	オムニバス
教科内容教材論－音楽科－	1・2後	2	○		1																兼5	オムニバス	
教科内容教材論－美術科－	1・2後	2	○									1									兼4	オムニバス	
教科内容教材論－保健体育科－	1・2後	2	○									1									兼1	オムニバス・共同（一部）	
教科内容教材論－技術科－	1・2後	2	○		1																兼4	オムニバス	
教科内容教材論－家庭科－	1・2後	2	○		1																兼2	オムニバス	
教科内容教材論－英語科－	1・2後	2	○																		兼3	オムニバス・共同（一部）	
小計（27科目）	—	—	54	—	7	4	0														兼49	—	
小計（94科目）	—	—	188	—	17	10	1														兼53	—	
合計（139科目）	—	—	290	—	28	19	1														兼57	—	

学位又は称号	教職修士（専門職）	学位又は学科の分野	教員養成関係
--------	-----------	-----------	--------

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>○卒業要件 修了要件単位数：46単位 履修登録の上限：年間34単位</p> <p>○履修方法 Ⅰ. 学校臨床力高度化系 初任期教員養成コース 1. 共通科目（共通5領域）…各領域から以下のように必修（計8科目16単位） (1)教育課程の編成及び実施に関する領域 「カリキュラムの開発と実践A」1科目2単位必修 (2)教科等の実践的な指導方法に関する領域 「授業デザインとICT活用A」「教科指導実践演習A」2科目4単位必修 (3)生徒指導及び教育相談に関する領域 「生徒指導・教育相談の理論と実践A」1科目2単位必修 (4)学級経営及び学校経営に関する領域 「学級経営の実践と課題A」「学校づくりと学校経営A」2科目4単位必修 (5)学校教育と教員の在り方に関する領域 「現代社会と学校教育」「教員の職務と役割」2科目4単位必修 2. 教職専門実習 「学校臨床専門実習Ⅰ・Ⅱ」計10単位必修 3. コース必修科目 「初任期教員養成コース」指定の4科目8単位及び「学校臨床力高度化系コース共通」の2科目4単位（計6科目12単位）を必修とする。 4. コース選択科目 「初任期教員養成コース」指定の3科目6単位及び「学校臨床力高度化系コース共通」の4科目8単位から、4科目8単位以上を選択する。なお、他の系・コースに設けられた科目であっても履修することができるが、この場合、修了要件及び履修基準の単位数に含めることはできないものとする。</p> <p>Ⅱ. 学校臨床力高度化系 中核教員・リーダー教員養成コース 1. 共通科目（共通5領域）…各領域から以下のように必修（計8科目16単位） (1)教育課程の編成及び実施に関する領域 「カリキュラムの開発と実践B」1科目2単位必修 (2)教科等の実践的な指導方法に関する領域 「授業デザインとICT活用A」「教科指導実践演習B」2科目4単位必修 (3)生徒指導及び教育相談に関する領域 「生徒指導・教育相談の理論と実践B」1科目2単位必修 (4)学級経営及び学校経営に関する領域 「学級経営の実践と課題B」「学校づくりと学校経営B」2科目4単位必修 (5)学校教育と教員の在り方に関する領域 「現代社会と学校教育」「教員の職務と役割」2科目4単位必修 2. 教職専門実習 「学校臨床専門実習Ⅰ・Ⅱ」計10単位を必修とする。なお、教職経験6年以上の者については、その教職経験によって得られた教育実践上の課題に関するレポートを提出させ、教職専門実習を所掌する委員会及び教授会において審査を行った上で、「学校臨床専門実習Ⅰ」（3単位）を履修したとみなして、履修を免除する場合がある。 3. コース必修科目 「中核教員・リーダー教員養成コース」指定の2科目4単位及び「学校臨床力高度化系コース共通」の2科目4単位（計4科目8単位）を必修とする。 4. コース選択科目 「中核教員・リーダー教員養成コース」指定の6科目12単位及び「学校臨床力高度化系コース共通」の4科目8単位から、6科目12単位以上を選択する。なお、他の系・コースに設けられた科目であっても履修することができるが、この場合、修了要件及び履修基準の単位数に含めることはできないものとする。</p>		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業時間	90分

III. 教科研究開発高度化系 人間発達探究コース

1. 共通科目（共通5領域）…各領域から以下のように必修（計8科目16単位）

(1) 教育課程の編成及び実施に関する領域

「カリキュラムの開発と実践C」1科目2単位必修

(2) 教科等の実践的な指導方法に関する領域

「授業デザインとICT活用C」1科目2単位必修

「教科指導実践演習C」「保育内容指導法演習」のうち1科目2単位を選択必修

(3) 生徒指導及び教育相談に関する領域

「生徒指導・教育相談の理論と実践C」1科目2単位必修

「生徒指導・教育相談実践演習」「幼児期の教育相談」のうち1科目2単位を選択必修

(4) 学級経営及び学校経営に関する領域

「学級経営の実践と課題C」1科目2単位必修

「学校づくりと学校経営C」「幼児期におけるクラスづくりと園づくり」のうち1科目2単位を選択必修

(5) 学校教育と教員の在り方に関する領域

「社会と学校教育・教員における現代的課題」1科目2単位必修

2. 教職専門実習

「教科研究専門実習Ⅰ・Ⅱ」計10単位を必修とする。なお、教職経験6年以上の者については、その教職経験によって得られた教育実践上の課題に関するレポートを提出させ、教職専門実習を所掌する委員会及び教授会において審査を行った上で、「教科研究専門実習Ⅰ」（3単位）を履修したとみなして、履修を免除する場合がある。

3. コース必修科目

「人間発達探究コース」指定の4科目8単位及び「教科研究開発高度化系コース共通」の3科目6単位（計7科目14単位）を必修とする。

4. コース選択科目

「人間発達探究コース」指定の2科目4単位及び「教科研究開発高度化系コース共通」の2科目5.4単位から、3科目6単位以上を選択する。なお、他の系・コースに設けられた科目であっても履修することができるが、この場合、修了要件及び履修基準の単位数に含めることはできないものとする。

IV. 教科研究開発高度化系 教科学習探究コース

1. 共通科目（共通5領域）…各領域から以下のように必修（計8科目16単位）

(1) 教育課程の編成及び実施に関する領域

「カリキュラムの開発と実践C」1科目2単位必修

(2) 教科等の実践的な指導方法に関する領域

「授業デザインとICT活用C」「教科指導実践演習C」2科目4単位必修

(3) 生徒指導及び教育相談に関する領域

「生徒指導・教育相談の理論と実践C」「生徒指導・教育相談実践演習」2科目4単位必修

(4) 学級経営及び学校経営に関する領域

「学級経営の実践と課題C」「学校づくりと学校経営C」2科目4単位必修

(5) 学校教育と教員の在り方に関する領域

「社会と学校教育・教員における現代的課題」1科目2単位必修

2. 教職専門実習

「教科研究専門実習Ⅰ・Ⅱ」計10単位を必修とする。なお、教職経験6年以上の者については、その教職経験によって得られた教育実践上の課題に関するレポートを提出させ、教職専門実習を所掌する委員会及び教授会において審査を行った上で、「教科研究専門実習Ⅰ」（3単位）を履修したとみなして、履修を免除する場合がある。

3. コース必修科目

「教科学習探究コース」指定の2科目4単位及び「教科研究開発高度化系コース共通」の3科目6単位（計5科目10単位）を必修とする。

4. コース選択科目

「教科学習探究コース」指定の5.2科目10.4単位及び「教科研究開発高度化系コース共通」の2.7科目5.4単位から、5科目10単位以上を選択する。なお、他の系・コースに設けられた科目であっても履修することができるが、この場合、修了要件及び履修基準の単位数に含めることはできないものとする。



教 育 課 程 等 の 概 要

（【既設】 連合教職実践研究科 教職実践専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通必修科目	カリキュラム概論	1・2前	2			○			1	1				兼1	オムニバス	
	カリキュラムの開発と実践A	1・2後		2		○			2	1				兼1	共同	
	カリキュラムの開発と実践B	1・2後		2		○								兼1		
	教科指導の理論と課題	1・2前	2			○				1	1			兼1	オムニバス	
	教科指導実践演習A	1・2前		2			○		3	3				兼1	共同	
	教科指導実践演習B	1・2後		2			○			1	1					
	生徒指導の理論と実践	1・2前	2			○			1					兼2	オムニバス	
	生徒指導実践演習	1・2後	2				○		2	3				兼1	オムニバス	
	学校経営の実践と課題A	1・2後		2		○				1				兼1		
	学校経営の実践と課題B	1・2前		2		○			1	1						
	学校づくりと学校経営A	1・2後		2		○			1					兼1		
	学校づくりと学校経営B	1・2前		2		○			1					兼1		
	現代社会と学校教育	1・2前	2			○			1	2					共同	
	教員の職務と役割	1・2後	2			○			1							
小計（14科目）		—	12	16			—		7	7	1			兼8	—	
教職専門実習	教職専門実習Ⅰ	1後		3				○	6	5	1			兼3		
	教職専門実習Ⅱ	2前		7				○	6	5	1			兼3		
	教職専門実習Ⅲ	1通		3				○	6	5	1			兼3		
	教職専門実習Ⅳ	2通		4				○	6	5	1			兼3		
	教職専門実習A	1後	3					○	1							
	教職専門実習B	1通	3					○						兼1		
	教職専門実習C	2通	4					○						兼1		
小計（7科目）		—	10	17			—		7	5	1			兼5	—	
コース必修科目	授業力高度化コース	授業コミュニケーション論	1・2前	2			○				1	1				
		授業研究の理論と実践	1・2後	2			○				2					
		現代的教育課題の教材化と授業実践	1・2後	2			○			1	1					
		授業力高度化演習	1・2後	2				○		3	2				兼1	共同
		授業力高度化実践研究Ⅰ	1・2通	2				○		1	1	1			兼2	
		授業力高度化実践研究Ⅱ	2後	2				○		1	1	1			兼2	
	生徒指導力高度化コース	望ましい集団づくりの実践と課題	1・2前	2			○			2						
		児童生徒理解の理論と実践	1・2後	2			○				2					共同
		教育相談・特別支援演習	1・2前	2				○			1				兼1	
		生徒指導充実のための学校内外の連携	1・2後	2			○			1					兼1	共同
		生徒指導力高度化実践研究Ⅰ	1・2通	2				○		1	1				兼2	
		生徒指導力高度化実践研究Ⅱ	2後	2				○		1	1				兼2	
	学校経営力高度化コース	教育改革と教育行政・学校経営	1・2前	2			○			1						
		教育法規の適用と課題	1・2後	2			○			1						
		学校づくりとリーダーシップ	1・2前	2			○								兼1	
		学校組織改善の理論と手法	1・2前	2			○								兼1	
		学校の危機管理	1・2後	2			○								兼1	
		学校経営力高度化実践研究	1・2通	2				○		1					兼2	
小計（18科目）		—	36				—		7	7	1			兼6	—	

選 択 科 目	社会認識を培う授業の実践	1・2後	2	○							兼1
	量的アプローチ授業分析研究	1・2後	2	○			1				
	情報機器操作法	1・2前	2	○			1				
	教育実践記録の国際比較	1・2後	2	○			1				
	問題行動改善のための事例研究	1・2前	2	○			1				
	人格理解のための理論と臨床技法	1・2前	2	○							兼1
	教員の意識と組織行動	1・2前	2	○							兼1
	地球・生命・環境と人間	1・2後	2	○							兼1
	現代の学校と共生教育	1・2後	2	○							兼1
	教育行政・学校経営改善実践演習	1・2前	2		○		1				
	学校事務と学校財務	1・2後	2	○			1				
	授業力熟達の理論と実践	1・2後	2	○							兼1 隔年
	スクールアイデンティティの形成と教員の役割	1・2前	2	○							兼1
	学校の魅力化と地域との連携	1・2後	2	○							兼1
	インクルーシブ教育システムと特別支援教育	1・2後	2	○			1				
	学校における心理教育	1・2後	2	○				2			
	小学校英語実践演習	1・2後	2		○						兼1
	ICTを活用した教育方法の実践と課題	1・2後	2		○				1		
	「問い」から考える教育学	1・2前	2	○							兼1 隔年
	学級づくりの歴史と現在	1・2前	2	○							兼1 隔年
	平和教育論	1・2後	2	○							兼1 隔年
	人権教育の課題と模索	1・2後	2	○							兼1 隔年
	教育評価について考える	1・2後	2	○							兼1 隔年
	教師の成長について考える	1・2後	2	○							兼1 隔年
	子どもと表現について考える	1・2前	2	○							兼1 隔年
	認知発達と教育的支援	1・2後	2	○							兼1 隔年
	学校カウンセリングの理論と実際	1・2前	2	○							兼3 隔年 オムニバス
	幼小接続について考える	1・2前	2	○							兼1 隔年
	学校という組織を考える	1・2後	2	○							兼1 隔年
	保育の専門性について考える	1・2前	2	○							兼1 隔年
小計 (30科目)	—	60	—	—	—	3	4	1		兼20	—
合計 (69科目)	—	58	93	—	—	8	8	1		兼24	—

学位又は称号	教職修士 (専門職)	学位又は学科の分野	教員養成関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
○卒業要件 修了要件単位数：46単位 履修登録の上限：年間34単位		1学年の学期区分	2期
○履修方法 1. 共通必修科目 10科目20単位を修得すること。		1学期の授業期間	15週
2. 教職専門実習 10単位を修得すること。なお、教職経験を有する者については、その教職経験によって得られた教育実践上の課題に関するレポートを提出させ、教職専門実習を所掌する委員会及び教授会において審査を行った上で、下記の単位を履修したとみなして、履修を免除する場合がある。		1時限の授業時間	90分
3. コース必修科目 所属するコースの科目について、6科目12単位を修得すること。			
4. 選択科目 2科目4単位を修得すること。			

授 業 科 目 の 概 要				
（連合教職実践研究科 教職実践専攻）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通科目	(1) 教育課程の編成・実施に関する領域	カリキュラムの開発と実践A	<p>本科目では各教科の単元計画を構想する。単元目標を達成するために各授業をどのように関連させて単元を構想するのかを学ぶ。また、ミドルリーダーとして各校の研究主任を担った場合に、各校のカリキュラムマネジメントができるように、現代的なテーマの「カリキュラム開発と運営の実際」を学ぶ。FWは先進的なカリキュラムを開発している小中学校において、その開発の方法と運営について実践的に学ぶ。</p> <p>カリキュラム開発と運営の実際、カリキュラム全体における授業の役割を省察し、各教科の単元を構成し、授業を効果的に位置づけることができ、現代的なテーマのカリキュラムを構想することができることを到達目標とする。</p>	
		カリキュラムの開発と実践B	<p>本科目では各教科の単元計画を構想する。単元目標を達成するために各授業をどのように関連させて単元を構想するのかを学ぶ。また、これまでの現場での経験を踏まえて、各校のカリキュラムマネジメントができるように、現代的なテーマの「カリキュラム開発と運営の実際」を学ぶ。FWは先進的なカリキュラムを開発している小中学校において、その開発の方法と運営について実践的に学ぶ。</p> <p>カリキュラム開発と運営の実際、これまでの実践の省察する。各教科の単元を構成し、授業を効果的に位置づけることができ、現代的なテーマのカリキュラムを構想することができることを到達目標とする。</p>	
		カリキュラムの開発と実践C	<p>（概要） 各教科等の単元計画を構想する際、単元目標を達成するために各授業をどのように関連させて単元をつくるのかを学ぶ。また、ミドルリーダーとして各学校の研究主任を担った場合に、学校全体を視野に入れたカリキュラム・マネジメントができるように、現代的なテーマに関するカリキュラムの開発と運営の実際についても学ぶ。その際、幼小接続の考え方についても検討する。</p> <p>カリキュラム開発と運営の実際、これまでの実践を省察する。各教科の単元を構成し、授業を効果的に位置づけることができ、現代的なテーマのカリキュラムを構想することができることを到達目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）            (21 樋口とみ子・43 樋口万太郎（実務家教員）・37 市田克利（実務家教員）／13回)            第1回においてイントロダクションを実施し、授業の計画等について説明し、最近の「資質・能力にもとづくカリキュラム改革」の特徴について検討する。            第2回から第6回まで、小学校及び中学校の各教科における単元構想について事例研究を行う。第7回から第9回まで、資質能力にもとづくカリキュラム改革における単元構想とその意義と課題について論じる。第12回から第14回まで、地域の課題をテーマとした「総合的な学習の時間」のカリキュラム、国際理解・グローバル教育をテーマとしたカリキュラム改革、プログラミングの思考を取り入れたカリキュラムについて、具体的な実践を検討する。第15回では、事例研究などをもとに、特色あるカリキュラム開発の意義と課題について考える。</p> <p>（12 古賀松香・43 樋口万太郎（実務家教員）・37 市田克利（実務家教員）／2回)            第10回及び第11回において、幼小接続のあり方について、基本的な考え方、具体的な実践を論じる。</p>	オムニバス方式・共同

<p>(2) 教科等の実践的な指導方法に関する領域</p>	<p>授業デザインとICT活用A</p>	<p>(概要) 教育におけるICT活用の在り方を、教育方法学の様々な概念装置を活用して捉え直し、本当の意味でICTを使いこなすために必要な指導力について検討する。具体的には、教育方法学の基礎概念を必要に応じて振り返りつつ、ICTを使った教育方法の実践事例・言説に対する批判的分析や、実際に使ってみたうえで省察を行う。また、到達目標を下記のとおり設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ICTを使った教育方法の動向を総合的に説明することができる。</li> <li>2. 教育方法的な観点から、教育実践におけるICT活用の在り方について自分なりに説得力をもって主張することができる。</li> <li>3. ICTを適切かつ的確に活用した授業を構想し、実践することができる。</li> </ol> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(33 福嶋祐貴・104 青砥弘幸/2回) (共同) 第1回においてイントロダクションを行い、ICTをめぐる歴史と現状・課題を把握する。第15回において、学修の成果を総括する。</p> <p>(33 福嶋祐貴/9回) 第2回から第10回まで、教科内容の理解を深めるICT活用、デジタル教科書の長所・短所、初等中等教育におけるプログラミング教育、情報リテラシー。ICTを活用した協調教育、ICTを用いた学修評価と学びの蓄積、遠隔授業の言語的、非言語的コミュニケーション、ICT活用の質と平等、ICTを用いた遠隔での学習環境について論じ、教育におけるICT活用の在り方を教育方法学の観点から捉える。</p> <p>(104 青砥弘幸/4回) 第11回から第14回まで、教科学習の授業デザインの観点から、ICTを活用した新しい学びを進めるための教科学習について論じる。</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
	<p>授業デザインとICT活用C</p>	<p>(概要) まず担当者がそれぞれの視点から幼児教育から高等学校教育においてICTを利用することの意義や課題について述べる。次に、授業における特色あるICT活用の実践を行っている京都市の小中学校(いずれかの対象校1校)を訪問し、授業参観及び担当教員へのインタビューを行い、授業における特色あるICT活用の実践方法、課題等について理解を深める。そして教員のグループに分かれて、ICTを活用した授業をデザインする演習を通して、ICTを活用した授業づくりのための授業(保育)デザイン力を高める。到達目標は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業の意義や課題を理解する。</li> <li>・ICTを活用した授業づくりのための授業(保育)デザイン力を高める。</li> </ul> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 徳岡慶一・43 樋口万太郎(実務家教員)・47 岡本幹(実務家教員)・38 佐藤卓也(実務家教員)/6回) (共同) 第1回ではオリエンテーションとして授業の概要と授業計画を提示し、授業の具体的なイメージを受講生が共有できるようにする。第3回ではデジタル教科書等を用いた小中高におけるICT教育活用の意義と課題を論じる。第6回から第9回にわたりICTを活用する学校でフィールドワークを実施する。</p> <p>(12 古賀松香・43 樋口万太郎(実務家教員)・47 岡本幹(実務家教員)・38 佐藤卓也(実務家教員)/1回) (共同) 第2回で、幼児教育におけるICT活用を論じる。</p> <p>(16 黒田恭史・43 樋口万太郎(実務家教員)・47 岡本幹(実務家教員)・38 佐藤卓也(実務家教員)/1回) (共同) 第4回で、個別支援(不登校、外国人の子ども、院内学級など)を必要とする子どもへのICT教育活用の意義を論じる。</p> <p>(17 谷口和成・43 樋口万太郎(実務家教員)・47 岡本幹(実務家教員)・38 佐藤卓也(実務家教員)/1回) (共同) 第5回で、アクティブ・ラーニングを支援する授業におけるICT教育活用の意義を論じる。</p> <p>(16 黒田恭史・17 谷口和成・43 樋口万太郎(実務家教員)・47 岡本幹(実務家教員)・38 佐藤卓也(実務家教員)/6回) (共同) 第10回から第14回まで、ICTを活用した授業デザインについて、演習として、単元構成、授業構成、グループによるプレゼンテーションに取り組む。第15回に、授業のまとめと振り返りを行う。</p>	<p>オムニバス方式・共同</p>
	<p>教科指導実践演習A</p>	<p>実務家教員が「教科における授業づくりの手順とポイント」及び「模擬授業」について説明を行う。この説明をもとに受講生は「授業の指導計画と教材研究、学習指導案づくり」を行い、「模擬授業」を実施し自身の課題の発見と修正をおこなう。続いて校種(小・中)別にフィールドワークを実施する。フィールドワークでは、教科の授業を中心に参観し、授業目標・内容・方法などを観察する。その上で、受講生は再度「模擬授業」を実施する。第2回目の模擬授業では課題を修正しよりよい授業をおこなうことが求められる。最後にグループワーク・全体討論などをおこない、自身の教科指導力を高める。</p> <p>到達目標としては、①教科における授業作りの手順とポイントを習得し、フィールドワークでの授業について理論的に分析できる。②教科の目標に則した学習指導計画を作成し模擬授業を行い、省察を行うことができる。また、模擬授業で発見した課題を修正した授業改善案を作成するとともに再度模擬授業を実施し、自身の教科指導をたかめることができることを挙げる。</p> <p>(23 徳永俊太・104 青砥弘幸・6 船田智史・34 佐古清(実務家教員)) 全回を共同して担当する。</p>	<p>共同</p>

教科指導実践演習 B	<p>自身の授業実践上の課題や校内の授業改善の課題について、フィールドワークや模擬授業・グループワークにより課題解決の方策を探る。フィールドワークは、言語活動の充実・共同的な学習・通常学級における特別支援など、授業改善のポイントとされる課題について研究を進めている学校を予定している。フィールドワークでの学びを生かし、「模擬授業」を行い、グループワーク・全体討論により自身の「授業改善案」を作成する。</p> <p>それぞれが持つ授業論に対する省察を行い、①フィールドワーク校の研究課題・理論・実践について整理することができる。②改善の視点を定めた模擬授業を行い、省察を行うことができる。③自身の授業実践上の課題や校内の授業改善の課題を明らかにし、理論に基づいた改善案を作成することができる、ことを到達目標とする。</p>	
教科指導実践演習 C	<p>理系・文系・芸術系研究者教員が「教科における授業づくりの方法とポイント」および「模擬授業」について説明を行う。この説明をもとに受講生は「授業の指導計画と教材開発・研究、学習指導案づくり」を行い、「模擬授業」を実施し自身の課題の発見と修正をおこなう。続いて校種（小・中・高）別にフィールドワークを実施する。フィールドワークでは、教科の授業を中心に参観し、授業目標・内容・方法などを観察する。その上で、受講生は再度「模擬授業」を実施する。最後にグループワーク・全体討論などを行い、自身の教科指導力を高める。なお、到達目標は下記のである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科における授業作りの方法とポイントを習得し、フィールドワークでの授業について教科内容・教科教育の両面について理論的方法で分析できる。</li> <li>・教科の目標に則した学習指導計画を作成し模擬授業を行い、省察を行うことができる。また、模擬授業で発見した課題を修正した授業改善案を作成するとともに再度模擬授業を実施し、自身の教科指導力を高めることができる。</li> </ul> <p>(28 寺田守・90 小松崎敏・45 藤田智之(実務家教員)・46 野ヶ山康弘(実務家教員)・37 市田克利(実務家教員)) 全回を共同して担当する。</p>	共同
保育内容指導法演習	<p>(概要) 領域「表現」「言葉」を中心に具体的な指導場面を想定した教材研究を行い、幼児の音楽的・言語的発達の特性をふまえた環境構成と援助のあり方を理解する。ロールプレイやグループディスカッションを通して、幼児の主体的な表現を引き出す指導技術を習得する。国内外の先進的な保育実践について映像教材等から学び、わが国における実践上の問題点などに関してディスカッションを行う。</p> <p>①幼児の多様な表現を引き出し、主体的な表現活動を保証する環境構成および教材開発の方法を理解するとともに、指導に生かす技術を身につける。 ②幼児期の音楽的・言語的表現の発達をふまえた、遊びとしての指導のあり方を理解する。③主体的・対話的で深い学びを実現するための保育方法や保育内容を具体的に構想することができることを到達目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 平井恭子・74 東村知子・42 高野史朗(実務家教員)/1回) (共同) 第1回で、オリエンテーションとして、授業の概要及び到達目標について説明する。 (11 平井恭子・42 高野史朗(実務家教員)/7回) 第2回から第8回まで、私たちの生活と音楽のかかわり、さまざまな楽器の活用をとりあげ、幼児の音楽表現と指導法について、説明する。 (74 東村知子・42 高野史朗(実務家教員)/7回) 第9回から第15回まで、乳幼児のこたばの発達、児童文化財の活用を取り上げ、子どもの言葉を豊かにする保育実践と指導法について考える。</p>	オムニバス方式・共同
(3) 生徒指導、教育相談に関する領域	<p>生徒指導・教育相談の理論と実践 A</p> <p>広義の生徒指導のあり方について学ぶ。非行や体罰、いじめ等についてその基本的な考え方、個別指導、集団指導、学級・学年・学校経営、学習や授業との関連、学校内外の連携やチームによる支援、また特別支援教育とのかかわりなど、今日的な生徒指導上の具体的な課題について、教育学の知見をベースに、総合的な生徒指導力を身につけることを目指す。</p> <p>到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員にとって生徒指導・教育相談とはどのような職務であるかを知る。</li> <li>2. すべての児童生徒を対象に育む生徒指導のあり方について理解する(集団指導)。</li> <li>3. 問題行動と特別支援教育とをかかわらせながら、個に応じた指導の重要性について理解する(個別指導)。</li> <li>4. 学年主任や生徒指導主事が行う生徒指導の役割について理解する。</li> <li>5. 生徒指導事案のメディア対応について理解する。</li> </ol>	

<p>生徒指導・教育相談の理論と実践B</p>	<p>非行や体罰、いじめ等の対応について、学級経営・学年経営・学校経営の視点から、これまでの自身の経験を振り返る。さらに、特別支援教育の考え方をふまえたチームによる支援や学校内外との連携など、刻々と変わる新たな生徒指導に関する考え方についても学ぶ。ミドルリーダー・管理職として、自分の勤務する学校の生徒指導体制を再確認しながら、今後に向けて生徒指導計画案を検討するなどして、総合的な生徒指導力の向上を目指す。</p> <p>到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒指導・教育相談とはどのような職務であるかを振り返りながら確認する。</li> <li>2. すべての児童生徒を育む生徒指導のあり方について振り返り、新たな知識を得る（集団指導）。</li> <li>3. 具体的な問題行動や問題行動と特別支援とのかかわりについて振り返り、新たな知見を得る（個別指導）。</li> <li>4. 生徒指導主事や管理職が生徒指導で果たす役割と責任について理解し、新たな知見を得る。</li> <li>5. 生徒指導主事等ミドルリーダーとして、あるいは管理職として自分が勤務するであろう学校を想定し、生徒指導体制案を作成する。</li> </ol> <p>(25 網谷綾香・39 新谷幸三(実務家教員)) 全回を共同して担当する。</p>	<p>共同</p>
<p>生徒指導・教育相談の理論と実践C</p>	<p>(概要) 現代学校教育における生徒指導・進路指導・教育相談及び特別支援教育についての基本的な理論と課題を学ぶ。対象となる課題として、いじめや不登校への理解と対応、特別支援教育との連携、児童相談所など学校内外との連携、チームによる支援、カウンセリング・マインド、また保護者への支援などを想定し、学校や教員としての関わり方を考えていく。</p> <p>到達目標は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導・進路指導・教育相談及び特別支援教育の意義と役割について理解する。</li> <li>・不登校やいじめ、発達障害等の教育課題への理解と対応について学ぶ。</li> <li>・チームによる支援や関係機関・保護者との連携の必要性とあり方について理解する。</li> <li>・カウンセリングの基礎的な知識と技法を身に付ける。</li> </ul> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(27 西村佐彩子・44 秋山雅文(実務家教員)・38 佐藤卓也(実務家教員)/10回) (共同)</p> <p>第1回から第5回まで、生徒指導・進路指導の意義と役割に関して、生徒指導上の課題への理解と対応、進路指導とキャリア教育の実践について、論じる。</p> <p>第6回から第10回まで、教育相談の意義と役割に関して、カウンセリングの理論と技法を紹介し、児童生徒の相談、保護者への支援についてカウンセリング実習を行う。</p> <p>(78 佐藤美幸・44 秋山雅文(実務家教員)・38 佐藤卓也(実務家教員)/2回) (共同)</p> <p>第11回から第12回まで、発達障害への理解と対応、特別な支援が必要な子どもと保護者支援について論じる。</p> <p>(22 相澤雅文・44 秋山雅文(実務家教員)・38 佐藤卓也(実務家教員)/3回) (共同)</p> <p>第13回から第15回まで、知的障害への特性理解と対応・支援の在り方、特別支援教育と教育課題との関連(いじめ、不登校等)、特別支援教育と学校コンサルテーションについて論じる。</p>	<p>オムニバス方式・共同</p>
<p>生徒指導・教育相談実践演習</p>	<p>『生徒指導・教育相談の理論と実践』で学んだ基礎的な内容を事例に基づいて演習を行い、理論的な知見を学校現場などで実践的に活用できるように探究を深めていく。また演習を通して、事例の検討、ロールプレイ、グループディスカッション、フィールドワークなどの主体的学習を重視し、生徒指導や子ども理解・支援の方法について能動的・積極的に考える姿勢、互いの考えをグループで共有し展開していくコミュニケーション能力の醸成も目指す。</p> <p>到達目標は、下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導・教育相談上の諸課題への理解とアプローチについて実践的に学ぶ。</li> <li>・学校カウンセリングの基本的態度と方法を身に付けて、教育相談に生かすことができるようになる。</li> <li>・不登校支援の関係機関の持つ役割についてイメージできる。</li> </ul> <p>(27 西村佐彩子・46 野ヶ山康弘(実務家教員)・48 北岡淳子(実務家教員)) 全回を共同して担当する。</p>	<p>共同</p>

<p>幼児期の教育相談</p>	<p>この授業では、育児・保育の現場が抱える諸問題を理解し、現場での支援の理論的かつ具体的方法について学び、育児現場、保育現場それぞれにおける教育相談のあり方と展開について理解を深めることを目的とする。授業内容は受講生のニーズも取り入れ、オリエンテーション時に協議して決定する。なお、到達目標は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児・保育現場の今日的課題について理解する。</li> <li>・乳幼児期の発達支援において求められる専門性について理解する。</li> <li>・乳幼児期の子どもと保護者の支援について、支援のあり方と展開について、実際に即して理解する。</li> </ul> <p>(75 佐川早季子・48 北岡淳子(実務家教員)) 全回を共同して担当する。</p>	<p>共同</p>
<p>(4) 学級経営、学校経営に関する領域</p> <p>学級経営の実践と課題 A</p>	<p>本授業は学級経営に関する共通科目である。共通科目は学部新卒生と現職教員の院生の混成クラスが原則ではあるが、両者のレイディネスと到達目標に大きな違いがあるため、本授業は学部卒院生のみクラスとし、基本的な学級経営について学ぶこととする。学級経営とは学級における教育の全領域を通して行われる核となる機能であり、教員・児童生徒・保護者の複雑な相互作用の中で展開される。そのため、断片化した技術ではなく、文脈依存的な力量が必要であり、根本的な見方や考え方を身につける必要がある。したがって、授業では理論的な考え方や事例の検討、ロールプレイ、学校でのフィールドワークなどを通して、学級経営について具体的なイメージを持ち、自分なりの見方・考え方を身につけることを目指す。</p> <p>到達目標は、下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学級経営について具体的にイメージができる。</li> <li>2. 学級経営についての考え方や指導の仕方を身につけている。</li> <li>3. 自分なりの学級経営観をふまえて、年度当初の学級経営案を作成することができる。</li> </ol>	
<p>学級経営の実践と課題 B</p>	<p>本授業は学級経営に関する共通科目である。共通科目は学部新卒生と現職教員の院生の混成クラスが原則ではあるが、両者のレイディネスと到達目標に大きな違いがあるため、本授業は現職教員のみクラスとし、若手教員の育成や学年経営・学校経営の観点から学級経営を取り上げることとする。本授業では理論と実践との架橋という観点から大きく3つの内容から構成する。1つめは学級経営の今日的課題に関すること、2つめは理論を踏まえた若手教員や初任者教員への支援のあり方、3つめは校内体制の見直しに関することである。最後の時間に勤務校の学級経営体制を練り直して作成したレポートを発表し合う。</p> <p>到達目標は、下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミドルリーダーの立場から若手教員の学級経営能力を高める指導・支援のための諸要件と指導・支援のあり方を、フィールドワークや事例研究を行いながら、分析・整理することができる。</li> <li>2. 学校経営・学年経営の視点から学級経営のあり方を再検討し、自分なりに学級経営に関する校内体制のあり方を提案することができる。</li> </ol>	
<p>学級経営の実践と課題 C</p>	<p>本授業は学級経営に関する共通科目である。学級経営とは文字通り学級の経営だが、この言葉の不思議さは、経営の主体と対象が何か必ずしも明らかではないことである。児童生徒は学級経営の主体か対象か、学級担任教員はいかなる立ち位置にあるのか。こうした学級という場の不思議さを見つめるとともに、そこで教員に求められる認知・判断・行為に関わる態度や力量の基礎として、広い視野を得ること及び多面的な状況理解ができることが目標である。そして、授業では基本用語の論理的検討のほか、資料映像の視聴、ロールプレイなどを通して、学級経営について複数のイメージを持つようになること、教育実践上の多様な方略を持つようになることを目指す。</p> <p>到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学級経営について複数のイメージを持つようになる。</li> <li>2. 学級経営に関する基本的な論理と行為について理解している。</li> <li>3. 自身の学級経営観にもとづき、年度当初の学級経営案を作成することができる。</li> </ol> <p>(8 榊原禎宏・45 藤田智之(実務家教員)・44 秋山雅文(実務家教員)) 全回を共同して担当する。</p>	<p>共同</p>
<p>学校づくりと学校経営 A</p>	<p>学校における教育関係に関する省察を行うための知識基盤の形成を目指して、学校教育の歴史、制度、実態について学習し、学校観の更新を図るとともに今日の学校経営の課題と教師の役割についての理解を深める。</p> <p>授業のテーマは「公教育としての学校教育の課題と教員の役割」である。</p> <p>到達目標は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公教育制度としての学校の構造的特徴について理解する。</li> <li>2. 現代社会における学校教育の課題について説明できるようになる。</li> <li>3. 現代的な学校教育の課題を解決するための学校のガバナンスとマネジメントの在り方及びそこにおける教員の役割を理解し、適切な組織行動がとれるようになる。</li> </ol> <p>(102 水本徳明・40 上山義宏(実務家教員)) 全回を共同して担当する。</p>	<p>共同</p>

学校づくりと学校経営 B	<p>自律的な学校経営を行うための教育課程の編成方法について、先進事例の分析をもとにカリキュラムマップの作成などを通して教育課程編成を行う実践力を身に付ける。</p> <p>授業のテーマは「自律的な学校経営と教育課程改善」である。到達目標は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自律的な学校経営の要件について理解する。</li> <li>2. 先進事例の特徴を分析し、そこから自校の改善についてアイデアを獲得できるようにする。</li> <li>3. 勤務校の教育課題を分析し、その解決のための効果的な教育課程改善およびその実現のための自己のリーダー行動を構想できるようにする。</li> </ol> <p>(3 河野和清・40 上山義宏(実務家教員)) 全回を共同して担当する。</p>	共同
学校づくりと学校経営 C	<p>学校教育に教員として携わる上で求められる、学校教育の理念、制度、実態に関する基礎的理解を深めるとともに、自身の学校観と教育観の揺らぎと更新を図ることのできる、学校教育の批判的考察と分析上の力量の基盤を築くことを目指す。</p> <p>到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の存立と運営に関わるマクロレベル・メゾレベル・ミクロレベルの事項について理解している。</li> <li>2. 学校づくりの具体的な領域とその課題について説明ができる。</li> </ol> <p>(8 榎原禎宏・36 中垣ますみ(実務家教員)) 全回を共同して担当する。</p>	共同
幼児期におけるクラスづくりと園づくり	<p>乳幼児期の教育における集団生活と保育者の役割を理解した実践ができるようになるために、乳幼児期における個と集団の育ちの特徴を理解する。その上で、年間指導計画や実践についてクラスづくりに関する課題の分析・評価を行い、改善の方策について考える。また、家庭や地域社会と連携した質の高い幼児期の教育の展開として、社会に開かれた幼児教育について実践事例を通して学ぶ。</p> <p>到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児期の教育における集団とその教育的意義について理解している。</li> <li>2. 年間指導計画と実践について、クラスづくりを視点とした分析・評価を行うことができる。</li> <li>3. 社会に開かれた教育課程の理念を実践する方策を提案することができる。</li> </ol> <p>(12 古賀松香・42 高野史朗(実務家教員)) 全回を共同して担当する。</p>	共同
(5) 学校教育と教員の在り方に関する領域	<p>現代社会と学校教育</p> <p>(概要) 多種多様な問題を生み出し、それへの対応や解決の道筋が不透明になっている今日の学校教育のあり方について、公教育・学校教育の本質的な認識や社会変化によるその課題を整理するとともに、さまざまな問題現象に関するディスカッション、対話を通じて理解を深めていく。</p> <p>現代社会における学校教育のあり方を考えることをテーマとし、到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在に至る社会の変化の中で、公教育の担ってきた役割を理解することを通じて、社会構造の変化の本質に関して考えることができる。</li> <li>2. 社会構造の変化の本質を踏まえながら、今日の学校教育に関わる諸問題の背景、文脈を読み解き、その本質について考えることができる。</li> <li>3. 授業の中で、学校教育の諸問題を考える中で、対話を重ね、協議を通じて、問題を深めることができる。</li> </ol> <p>(1 笠沙知章・23 徳永俊太・24 安達知郎) 全回を共同して担当する。</p>	共同
教員の職務と役割	<p>公教育制度における教員の職務と役割について、その法制度に関する理解を深め、専門職としての教員の社会的責任、法的責任について考察する。特に、教員の職業倫理について考察し、理解を深めること、裁判となり、法的責任をめぐって争われた事例について検討することにより、論理的思考力、判断力を養うこと、教員の資質向上について検討し、どのような教員を目指すか自ら目指す教員像について考察するものである。</p> <p>公教育制度における教員の職務と役割について、法的責任を中心に理解を深めることをテーマとする。到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員の法的責任、教員が置かれた制度上の位置づけについての的確に理解すること。</li> <li>2. 個人の自由と公共性との関係について深く考察することができること。</li> <li>3. 子どもとの関係における教員の法的責任について、事例に即して考えることのできること。</li> <li>4. 教員をめぐる今日の問題状況について、その背景、問題の本質について考えることができること。</li> <li>5. 教員の資質能力についての認識を深め、自ら目指す教員像について、深く考えることができること。</li> </ol> <p>(1 笠沙知章・34 佐古清(実務家教員)) 全回を共同して担当する。</p>	共同



	<p>社会と学校教育・教員における現代的課題</p>	<p>人権教育、グローバル教育、共生教育等の理念について学ぶ。具体的には、子どもの生活・社会的背景の多様性や差別について理解したうえで、子どもの貧困、虐待、外国人児童生徒等、学校教育が直面する現状と課題について深く分析し、教員としての関わり方を考える。</p> <p>到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育や教員をめぐる現代的な課題について関心を持ち、その解決に向き合うことができる。</li> <li>2. 学校教育や教員をめぐる現代的な課題について、理念や情報を元に、現状を分析することができる。</li> <li>3. 他者と考えを交流しながら現代的課題への教員としての関わり方について構想することができる。</li> </ol> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(50 濱田麻里・77 丸山啓史・47 岡本幹(実務家教員)・38 佐藤卓也(実務家教員)／3回) (共同)</p> <p>第1回でオリエンテーションとして授業の概要と到達目標について説明する。また、第2回でイントロダクションとして公教育における教員の役割について論じる。第15回では、授業のまとめを行う。</p> <p>(77 丸山啓史・47 岡本幹(実務家教員)・38 佐藤卓也(実務家教員)／6回) (共同)</p> <p>第3回から第5回まで、人権教育をめぐる諸課題について取り上げる。また、第12回から第14回まで、教育における格差をめぐる諸課題について取り上げる。</p> <p>(50 濱田麻里・47 岡本幹(実務家教員)・38 佐藤卓也(実務家教員)／6回) (共同)</p> <p>第6回から第8回まで、グローバル教育をめぐる諸課題について取り上げる。また、第9回から第11回まで、外国人児童生徒等教育をめぐる諸課題について取り上げる。</p>	<p>オムニバス方式・共同</p>
<p>教職専門実習</p>	<p>学校臨床専門実習Ⅰ</p>	<p>1年次において、実習等を通して、学校が抱えている教育課題の理解を深めること、職務遂行能力の基礎を養うこと、大学院での講義、演習などで得た知見を基に、実習における経験を省察し、その背景、文脈を読み解くことをテーマとする。</p> <p>到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員として必要な職務遂行能力を身につけること。</li> <li>2. 学校の教育課題について理解を深めること。</li> <li>3. 学校の教育課題、実習での経験を省察し、その文脈を読み解く力量を身につけること。</li> </ol> <p>(1 竺沙知章・2 片山紀子・3 河野和清・4 児玉祥一・5 谷川至孝・6 船田智史・23 徳永俊太・24 安達知郎・25 網谷綾香・33 福嶋祐貴・34 佐古清(実務家教員)・35 佐伯卓也(実務家教員)・39 新谷幸三(実務家教員)・40 上山義宏(実務家教員)・41 永尾彰子(実務家教員)・102 水本徳明・103 角田豊・104 青砥弘幸・105 森口洋一) 共同して担当する。</p>	<p>共同</p>
	<p>学校臨床専門実習Ⅱ</p>	<p>2年次において、実習等を通して、指導力の向上を図るとともに、学校の教育課題の改善に向けた校内研究など、学校における組織的な業務を遂行する力量を身につけること、児童生徒の様子など学校における様々な状況の文脈を読み解き、その改善に向けた取り組みを推進する力量を身につけることをテーマとする。到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教員として必要な職務遂行能力の向上を図ること。</li> <li>(2) 学校の教育課題の文脈を読み解き、問題を探索する力量を身につけること。</li> <li>(3) 学校の教育課題に関する校内研究に関与し、その改善を図る力量を身につけること。</li> </ol> <p>(1 竺沙知章・2 片山紀子・3 河野和清・4 児玉祥一・5 谷川至孝・6 船田智史・23 徳永俊太・24 安達知郎・25 網谷綾香・33 福嶋祐貴・34 佐古清(実務家教員)・35 佐伯卓也(実務家教員)・39 新谷幸三(実務家教員)・40 上山義宏(実務家教員)・41 永尾彰子(実務家教員)・102 水本徳明・103 角田豊・104 青砥弘幸・105 森口洋一) 共同して担当する。</p>	<p>共同</p>

			教科研究専門実習 I	<p>連携協力校の担当指導教員から、学級担任の職務や校務分掌について指導を受けながら教科の授業（保育）を中心に実習を行い、自らの実践的指導（保育）力の課題を明らかにすることを目指す。</p> <p>また、研究者教員と実務家教員の協働により、幼児・児童・生徒を深く理解する力、幼児・児童・生徒が深い学びを実現できるように授業（保育）を適切にデザインする力、自らの実践を省察し、実践を探究する等の実践的指導力を育成する。その際、大学院における学びと学校現場での学びを相互に行き来して、理論から実践を読み解き、実践から理論を振り返る。</p> <p>(7 徳岡慶一・8 榊原禎宏・9 相澤伸幸・10 佐藤克敏・11 平井恭子・12 古賀松香・13 平石隆敏・14 植山俊宏・15 西本有逸・16 黒田恭史・17 谷口和成・18 原田信一・19 井上えり子・20 清村百合子・21 樋口とみ子・22 相澤雅文・26 田爪宏二・27 西村佐彩子・28 寺田守・29 小山宏之・30 榎下達也・31 山内朋樹・32 中村翼・36 中垣ますみ（実務家教員）・37 市田克利（実務家教員）・38 佐藤卓也（実務家教員）・42 高野史朗（実務家教員）・43 樋口万太郎（実務家教員）・44 秋山雅文（実務家教員）・45 藤田智之（実務家教員）・46 野ヶ山康弘（実務家教員）・47 岡本幹（実務家教員）・48 北岡淳子（実務家教員）） 共同して担当する。</p>	共同
			教科研究専門実習 II	<p>1年次の教科研究専門実習 I を基盤としつつ、大学院における学びによってこれまでに修得した専門知識や理論を、担当指導教員から実習に関する指導を受けながら実習を通してより実践的なものにし、授業力（保育力）を中心とした自らの実践的指導（保育）力のより一層の向上を目指す。</p> <p>また、研究者教員と実務家教員の協働により、幼児・児童・生徒をより深く理解する力、幼児・児童・生徒が深い学びを実現できるように授業（保育）をより適切にデザインする力、自らの実践をより深く省察し、実践を探究する等の実践的指導力のより一層の育成を目指す。</p> <p>(7 徳岡慶一・8 榊原禎宏・9 相澤伸幸・10 佐藤克敏・11 平井恭子・12 古賀松香・13 平石隆敏・14 植山俊宏・15 西本有逸・16 黒田恭史・17 谷口和成・18 原田信一・19 井上えり子・20 清村百合子・21 樋口とみ子・22 相澤雅文・26 田爪宏二・27 西村佐彩子・28 寺田守・29 小山宏之・30 榎下達也・31 山内朋樹・32 中村翼・36 中垣ますみ（実務家教員）・37 市田克利（実務家教員）・38 佐藤卓也（実務家教員）・42 高野史朗（実務家教員）・43 樋口万太郎（実務家教員）・44 秋山雅文（実務家教員）・45 藤田智之（実務家教員）・46 野ヶ山康弘（実務家教員）・47 岡本幹（実務家教員）・48 北岡淳子（実務家教員）） 共同して担当する。</p>	共同
コース 必修科 目	学校臨床 力高度化系	初任期 教員養成 コース	特別支援教育の理論と実践	<p>通常の学級においても、特別支援教育の実践が求められている。この科目では、特別支援教育の理念・仕組みについての理解を深めながら、障害のある子どもを視野に入れた授業づくり、合理的配慮の考え方と進め方、教職員間および専門職間の連携のあり方などについて学ぶ。到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援教育の理念・仕組み・教育課程等について理解することができる。</li> <li>2. 特別支援教育における連携・協力の重要性について理解することができる。</li> <li>3. 特別支援教育の現状や実際の取組みについて理解することができる。</li> </ol> <p>※学校臨床力高度化系の初任期教員養成コース、教科研究開発高度化系の人間発達探究コースで、クラス分けを行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(10 佐藤克敏／5回) 第1回ではオリエンテーションとして、授業の概要や進め方等について確認する。第2回から第5回にかけて、特別支援教育の理念、ICFと障害理解、障害の理解と対応、インクルーシブ教育システムと特別支援教育支援体制について論じる。</p> <p>(77 丸山啓史／5回) 第6回から第10回にかけて、諸外国におけるインクルーシブ教育の取り組み、保護者や福祉機関等との連携協力、障害のある子どもの教育の歴史、特別支援教育の教育課程の変遷、特別な教育的ニーズに基づく対応について論じる。</p> <p>(22 相澤雅文／5回) 第11回から第15回にかけて、通常の学級における特別支援教育と配慮の実際、通級による指導における教育の実際、特別支援学級・学校における教育課程、特別支援教育における自立活動、及び授業のまとめと、特別支援教育の現状と課題を整理する。</p>	オムニバス方式
			現代的教育課題の教材化と授業実践	<p>2年次後期に位置づくこの授業では、大学での学びを授業、授業外に分けてすべて省察し、それらに関連付けることで総括し、その上でそれを活用して、授業を構想することを求める。言い換えれば、大学院での学びをそれぞれが体系づけて学び直す(re-learn)することを目的としている。総括はパーマネントポートフォリオを作成する形で行う。授業の望むにあたっては、レジュメ、参考資料、作成した課題等の整理が求められる。</p> <p>大学院での学びの総括とそれに基づく授業づくりをテーマとし、大学院での学びを総括したうえで、総括をいかした総合的な学習の時間の授業構想を作成することができることを到達目標とする。</p>	

	学校臨床とかかわり合う力A	<p>かかわり合いの基礎となる、臨床心理学や省察の理論を学ぶと共に、カウンセリングや臨床技法を体験的に学ぶ。また、受講生が実習などで体験した子どもとかかわり合いをグループ省察会を通して事例検討する。</p> <p>到達目標は下記のとおりである。</p> <p>(1)かかわり合いの基礎となる臨床心理学や省察の理論を修得する。  (2)ロールプレイによって実践的なカウンセリングの基本姿勢を身につける。  (3)学部卒院生がこれまでに経験した、生徒指導・教育相談・特別支援など学校臨床上の事例について、プロセスレコードを用い演習形式で自己省察ならびにグループ省察を深める。それらを通じて、①子ども理解や見立ての進め方、②教師としてのかかわり方、③子どもと教師のかかわり合いをとらえる際の基盤となる視点を修得する。</p> <p>(103 角田豊・41 永尾彰子(実務家教員))  全回を共同して担当する。</p>	共同
	学校における心理教育	<p>学校教育において浸透しつつある心理教育の概要、及び主要な心理教育プログラムを学ぶ。特に、主要な心理教育プログラムのひとつであるアサーショントレーニングについては、実際に体験し、その理解を深める。</p> <p>到達目標は下記のとおりである。</p> <p>①学校における心理教育の概要を説明することができる。  ②アサーショントレーニングを体験的に理解し、アサーションの姿勢を日常場面で活用することができる。</p>	
中核教員・リーダー教員養成コース	学校臨床とかかわり合う力B	<p>かかわり合いの基礎となる、臨床心理学や省察の理論を学ぶと共に、カウンセリングや臨床技法を体験的に学ぶ。また、受講生が学校現場で体験した子どもとかかわり合いをグループ省察会を通して事例検討する。</p> <p>到達目標は下記のとおりである。</p> <p>(1)かかわり合いの基礎となる臨床心理学や省察の理論を修得する。  (2)ロールプレイによって実践的なカウンセリングの力量を身につける。  (3)現職院生がこれまでに経験した、生徒指導・教育相談・特別支援など学校臨床上の事例について、事例検討用フォーマット改訂版(プロセスレコードを含む)を用い演習形式で自己省察ならびにグループ省察を深める。それらを通じて、①子ども理解や見立ての進め方、②教師としてのかかわり方、③子どもと教師のかかわり合いをとらえる視点を修得する。</p> <p>(103 角田豊・41 永尾彰子(実務家教員))  全回を共同して担当する。</p>	共同
	現代の公教育と人間形成の課題	<p>現代社会の様々な現象、とりわけ子どもに関わる現象について、その背景、文脈について分析するとともに、その分析に基づきながら、現代社会における人間形成の課題について考察し、公教育のありようについて検討を行う。</p> <p>学校のリーダーに求められる文脈を読み解く力を育成するために、現代社会における人間形成の課題を探求することをテーマとする。到達目標は下記のとおりである。</p> <p>1. 現代社会のありように対する認識を深めること  2. 現代社会における公教育のありように対する認識を深めること  3. 現代の公教育における人間形成の課題に対する認識を深めること</p>	
学校臨床力高度化系コース共通	省察実践研究 I	<p>教職専門実習の翌日にその経験を振り返り、省察を行うこと、大学院の講義・演習科目での知見と教職専門実習での経験とを関連付けながら、受講生間の対話を通じて問題の探索を行うこと、教職専門実習とは別の学校等においてフィールドワークを行い、実地経験をj通じて問題の探索を行うこと、以上のような演習を受講生の主体的な取り組みを基本に展開していく。</p> <p>教職専門実習における様々な経験を振り返り、その背景や現象の意味について分析、考察し、大学院での講義、演習での学びも参照しながら、学校教育に関する理論知、実践知を深めることをテーマとする。</p> <p>(1 笠沙知章・2 片山紀子・3 河野和清・4 児玉祥一・5 谷川至孝・6 船田智史・  23 徳永俊太・24 安達知郎・25 網谷綾香・33 福嶋祐貴・34 佐古清(実務家教員)・35 佐伯卓也(実務家教員)・39 新谷幸三(実務家教員)・102 水本徳明・103 角田豊・104 青砥弘幸・105 森口洋一)  共同して担当する。</p>	共同
	省察実践研究 II	<p>教職専門実習の翌日にその経験を振り返り、省察を行うこと、大学院の講義・演習科目での知見と教職専門実習での経験とを関連付けながら、受講生間の対話を通じて問題の探索を行うこと、教職専門実習とは別の学校等においてフィールドワークを行い、実地経験をj通じて問題の探索を行うこと、以上のような演習を受講生の主体的な取り組みを基本に展開していく。</p> <p>1年次(短期履修生は前期)の学び並びに教職専門実習における様々な経験を振り返り、その背景や現象の意味について分析、考察し、大学院での講義、演習での学びも参照しながら、学校教育に関する理論知、実践知を深めることをテーマとする。</p> <p>(1 笠沙知章・2 片山紀子・3 河野和清・4 児玉祥一・5 谷川至孝・6 船田智史・  23 徳永俊太・24 安達知郎・25 網谷綾香・33 福嶋祐貴・34 佐古清(実務家教員)・35 佐伯卓也(実務家教員)・39 新谷幸三(実務家教員)・102 水本徳明・103 角田豊・104 青砥弘幸・105 森口洋一)  共同して担当する。</p>	共同

教科研究開発高度化系	人間発達探究コース	人間発達セミナー	<p>(概要) 人間発達探究コースの必修科目として、コース全体に関わる内容を概観する。具体的には、教育学・心理学・発達障害・幼児教育の4つの分野について、基本的な事柄や現代的な課題などを取り上げ、検討する。 人間発達探究コースを構成する4つの分野(教育学・心理学・発達障害・幼児教育)に関する基本的な事柄や現代的な課題について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(21 樋口とみ子・8 榑原禎宏/4回) (共同) 第1回にオリエンテーションとして人間発達探究コースの概要について説明後、第2回と第3回で、教育学の観点から、現代的な教育課題、学習指導要領の改訂、教育制度改革について取り上げる。第15回に、まとめとして、人間発達について論じる。 (26 田爪宏二/4回) 第4回から第7回まで、心理学の観点から、学校教育と心理学、生涯発達の捉え方、心理発達の基礎理論、心理学的実践研究・事例研究の方法について取り上げる。 (76 牛山道雄/2回) 第8回と第9回で、特別支援教育の観点から、特別支援教育の概略と現状、特別支援教育の探究方法(関連学会、ジャーナルの紹介、研究動向)について取り上げる。 (49 小谷裕実/2回) 第10回と第11回で、特別支援教育の観点から、特別支援教育と医療、学校と保護者との連携について取り上げる。 (12 古賀松香/1回) 第12回で、幼児教育について、幼児教育学からみる幼児教育を論じる。 (75 佐川早季子/1回) 第13回で、幼児教育について、幼児心理学からみる幼児教育を論じる。 (11 平井恭子/1回) 第14回で、幼児教育について、保育内容からみる幼児教育を論じる。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
		認知発達と学習の心理学	<p>発達心理学、認知心理学の視点を中心に、幼児及び児童生徒の学びの理解とそこにおける教育的支援について学習する。まずは学齢期の学習の基盤となる認知の基礎過程の特徴とその発達について具体的なトピックスを取り上げて解説する。その上で、認知発達の個性や個人差、および発達の課題の捉え方と、それを踏まえた教師の支援のあり方について、臨床発達心理学的視点を交えながら考察する。</p> <p>到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知発達の視点を中心に、現代の発達心理学における知見や課題について理解している。</li> <li>2. 認知発達と学習に関する課題について、教育場面との関わりから考察することができる。</li> <li>3. 認知発達と学習に対する心理学的支援の視点と具体的な技法について理解している。</li> </ol>	
		特別支援教育の理論と実践	<p>通常の学級においても、特別支援教育の実践が求められている。この科目では、特別支援教育の理念・仕組みについての理解を深めながら、障害のある子どもを視野に入れた授業づくり、合理的配慮の考え方と進め方、教職員間および専門職間の連携のあり方などについて学ぶ。到達目標は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の理念・仕組み・教育課程等について理解することができる。</li> <li>・特別支援教育における連携・協力の重要性について理解することができる。</li> <li>・特別支援教育の現状や実際の取組みについて理解することができる。</li> </ul> <p>※学校臨床力高度化系の初任期教員養成コース、教科研究開発高度化系の人間発達探究コースで、クラス分けを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 佐藤克敏/5回) 第1回ではオリエンテーションとして、授業の概要や進め方等について確認する。第2回から第5回にかけて、特別支援教育の理念、ICFと障害理解、障害の理解と対応、インクルーシブ教育システムと特別支援教育支援体制について論じる。 (77 丸山啓史/5回) 第6回から第10回にかけて、諸外国におけるインクルーシブ教育の取り組み、保護者や福祉機関等との連携協力、障害のある子どもの教育の歴史、特別支援教育の教育課程の変遷、特別な教育的ニーズに基づく対応について論じる。 (22 相澤雅文/5回) 第11回から第15回にかけて、通常の学級における特別支援教育と配慮の実践、通級による指導における教育の実践、特別支援学級・学校における教育課程、特別支援教育における自立活動、及び授業のまとめと、特別支援教育の現状と課題を整理する。</p>	オムニバス方式
		子育て支援の理論	<p>保育現場では近年、多様な家庭背景を持つ子どもが在籍している。本授業では、現代の子どもと保護者がおかれている状況を理解するとともに、子育て支援に関わる法制度とさまざまな形で展開されている子育て支援の実践について、必要な知識を学ぶ。</p> <p>到達目標は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の子育てが直面する課題、及びさまざまな生きづらさを抱える子どもと保護者の問題について理解し、自分なりの考えを述べることができる。</li> <li>・子育て支援の現状及び問題をふまえ、改善策を考えることができる。</li> </ul>	

<p>教科学 習探究 コース</p>	<p>教科カリキュラム開発セミナー</p>	<p>(概要) このセミナーでは、子どもの発達段階や校種間連続あるいは教科横断などを視野に入れた上で、各教科のカリキュラムマネジメントに関する実践的展開力を育成する。</p> <p>各学問分野における子どもの発達特性について理解し、子どもの発達特性を意識した校種間連携のカリキュラムをデザインし、各学問分野の特性を理解した上で、教科横断型授業を実践的に開発し、グローバル化を理解した上で、言語コミュニケーションや多様性の観点から学習をデザインすることができることを到達目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(14 植山俊宏・16 黒田恭史・20 清村百合子／3回) (共同) 第1回でオリエンテーションを実施、文献研究及び事例分析の目的と方法を論じる。第14回及び第15回でグローバル化の視点からみたカリキュラムデザインとして、カリキュラムの構想・立案、考案したカリキュラムの交流・検討を行う。</p> <p>(14 植山俊宏・16 黒田恭史／4回) (共同) 第2回において言語分野における子どもの発達特性、第5回において発達特性を意識した言語分野における幼小接続のカリキュラムデザイン、第8回において発達特性を意識した言語分野における小中接続のカリキュラムデザイン、第12回において教科横断型授業のカリキュラム開発・カリキュラムの構想・立案を論じる。</p> <p>(16 黒田恭史・20 清村百合子／4回) (共同) 第3回において数理自然技術分野における子どもの発達特性、第6回において発達特性を意識した数理自然技術分野における幼小接続のカリキュラムデザイン、第9回において発達特性を意識した数理自然技術分野における小中接続のカリキュラムデザイン、第11回においてSTEAM教育の視点からみた教科横断型授業の可能性を論じる。</p> <p>(20 清村百合子・14 植山俊宏／4回) (共同) 第4回において芸術分野における子どもの発達特性、第7回において発達特性を意識した芸術分野における幼小接続のカリキュラムデザイン、第10回において発達特性を意識した芸術分野における小中接続のカリキュラムデザインを論じ、第13回において教科横断型授業のカリキュラム開発・考案したカリキュラムの交流・検討を行う。</p>	<p>オムニバス方式・ 共同</p>
	<p>教科授業開発セミナー</p>	<p>(概要) このセミナーでは、教科の専門的知識や学習の成立についての諸理論を踏まえた上で、学習指導の立案・実践・省察という授業デザイン力を育成する。授業の到達目標としては下記のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業デザインを構成する諸要素について理論的に理解することができる。</li> <li>2. 各学問分野の特性を踏まえた教育方法について理解することができる。</li> <li>3. 授業デザインに関する理論的な考え方に基づいて学習指導案を作成することができる。</li> <li>4. 作成した学習指導案に基づき、仮説生成模擬授業を実践することができる。</li> <li>5. 仮説生成模擬授業について省察し、授業評価することができる。</li> </ol> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(14 植山俊宏・18 原田信一・20 清村百合子／3回) (共同) 第1回においてオリエンテーションとして、授業に関する諸理論を踏まえたうえで、授業デザインをすることの意義について論じる。第14回及び第15回において、仮説生成模擬授業の省察として、子どもの思考の筋道の観点及び教師の指導性の観点から論じる。</p> <p>(14 植山俊宏・18 原田信一／4回) (共同) 第2回において授業デザインの基礎として目標・子ども理解・評価について、第4回において言語分野における教育方法の理論と実際、第8回において各教科における表現する力の育成について、第11回において仮説生成模擬授業の実践として言語分野の授業を論じる。</p> <p>(20 清村百合子・14 植山俊宏／4回) (共同) 第3回において授業デザインの基礎として教材・単元構成・学習過程について論じ、第6回において芸術分野における教育方法の理論と実際、第10回において学習指導案の検討、第13回において仮説生成模擬授業の実践として芸術分野の授業を論じる。</p> <p>(18 原田信一・20 清村百合子／4回) (共同) 第5回において数理自然技術分野における教育方法の理論と実際、第7回において児童生徒の学習意欲と自己効力との関連、第9回において学習指導案の立案・作成、第12回において仮説生成模擬授業の実践として数理自然技術分野の授業を論じる。</p>	<p>オムニバス方式・ 共同</p>

		教科研究開発高度化系コース共通	教育実践研究セミナー	<p>(概要) 「学びつづける教員」として、自らの教育実践の成果を「研究」に深化させ、その成果を再び教育実践にフィードバックさせるために必要な、研究の計画立案から調査と分析の手法、また研究倫理と論文執筆の際のルールなど基本的な理解とスキルについて学ぶ。後半はクラスに分かれ、演習形式で実施する。</p> <p>教育実践を、さらに研究レベルまで深めるために必要な知識と技能を身につけ、学校教育において調べ学習や探究的学習の方法や注意点について適切に指導することができることを到達目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13 平石隆敏/2回) 第1回で、ガイダンスを実施して授業の概要と授業の進め方を説明後、第2回まで社会の公共的な信頼に応える研究活動における研究倫理について論じる。</p> <p>(96 比良友佳理/1回) 第3回で、論文と引用・著作権の観点から、研究成果を公表する際のルール、論文執筆のための著作権と適性な引用について論じる。</p> <p>(26 田爪宏二/1回) 第4回で、研究に求められる調査について、エビデンスにもとづく研究、量的調査と質的調査について論じる。</p> <p>(79 中俣尚己/1回) 第5回で、量的調査について論じる。</p> <p>(57 土屋雄一郎/1回) 第6回で、質的調査について論じる。</p> <p>(26 田爪宏二・79 中俣尚己・57 土屋雄一郎/9回) (共同)</p> <p>第7回から第15回まで、調査演習を実施する。研究課題の作成から、調査、調査結果分析、研究成果のまとめまで、演習形式で実施する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
		実践課題研究 I	<p>教科研究専門実習 I を通して得られた課題意識を深め、実践課題研究 II につなげる。その際、大学院での学び、特に教育実践研究セミナーでの知見と関連付ける。</p> <p>修了論文作成のための方法論を理解し、ゼミでの発表等を通して課題意識を深めることを到達目標とする。</p> <p>(7 徳岡慶一・8 榊原禎宏・9 相澤伸幸・10 佐藤克敏・11 平井恭子・12 古賀松香・13 平石隆敏・14 植山俊宏・15 西本有逸・16 黒田恭史・17 谷口和成・18 原田信一・19 井上えり子・20 清村百合子・21 樋口とみ子・22 相澤雅文・26 田爪宏二・27 西村佐彩子・28 寺田守・29 小山宏之・30 榎下達也・31 山内朋樹・32 中村翼)</p> <p>共同して担当する。</p>	共同	
		実践課題研究 II	<p>教科研究専門実習 I、教科研究専門実習 II、実践課題研究 I を通して得られた課題意識に基づいて修了論文を作成する。</p> <p>修了論文作成のための方法論を理解し、ゼミでの発表等を通して課題意識を深め、修了論文をまとめることを到達目標とする。</p> <p>(7 徳岡慶一・8 榊原禎宏・9 相澤伸幸・10 佐藤克敏・11 平井恭子・12 古賀松香・13 平石隆敏・14 植山俊宏・15 西本有逸・16 黒田恭史・17 谷口和成・18 原田信一・19 井上えり子・20 清村百合子・21 樋口とみ子・22 相澤雅文・26 田爪宏二・27 西村佐彩子・28 寺田守・29 小山宏之・30 榎下達也・31 山内朋樹・32 中村翼)</p> <p>共同して担当する。</p>	共同	
コース選択科目	学校臨床力高度化系	初任期教員養成コース	授業コミュニケーション論	<p>教える教師と学ぶ子どもたち、そして子どもたち同士のコミュニケーションに焦点を当てて、その教育方法について検討する。具体的には、教科や教科外(総合的学習などの学際的な領域)における授業コミュニケーションの課題について実践的に論じ、模擬授業を行う。その折に、発問や板書の方法等についても議論する。授業コミュニケーションを大切にしている実践者を選び、フィールドワークを実施する。</p> <p>授業におけるコミュニケーションの大切さに気づき、コミュニケーションを大切に授業を実践できることを到達目標とする。</p>	
		授業研究の理論と実践	<p>本授業は共通科目で学修したカリキュラムの開発や編成、教科指導に関する理論や基本的スキルを基盤とし、授業力向上のために学校現場で広く実践されている教員による校内の「授業研究会(会)」の意義と方法を体験的に学び、同僚性の中で互いの職能を向上させる能力を身につけることを目標としている。</p> <p>本授業では実際の学習指導案や授業を素材に、指導案や授業を分析・評価を行うことで、授業における中心となる課題を明らかにし、授業改善の具体的方法を提案できることをめざしている。</p> <p>本授業ではフィールドワークを実施する。学習指導案を事前に検討し、授業観察の観点を各自が明確にもった上で授業参観を行い、参観後は授業者を交えて学習指導案の内容や参観した授業についての質疑応答を行う。それらをもとに、本授業の中で授業研究会を開催する。</p> <p>個人および組織で行う授業研究をテーマとし、到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業力を高めるために授業研究と授業研究会が果たす意義と役割について理解する。</li> <li>2. 教科教育の知見を踏まえながら、授業研究の基礎となる学習理論の変遷とそれぞれの理論の特性について理解する。</li> <li>3. 学習指導案の分析・評価の方法や授業観察の観点の設定や授業分析・評価のあり方について理解する。</li> <li>4. 全体での議論を踏まえながら、実際の授業について、学習指導案の分析、授業の評価、授業改善の提案を行うことができる。</li> </ol> <p>(6 船田智史・23 徳永俊太)</p> <p>全回を共同して担当する。</p>	共同	

<p>授業力高度化演習</p>	<p>「教科指導実践演習」および「教職専門実習」の学びを踏まえ、自身の実践上の課題について、模擬授業により課題解決の方策を探る。 自身の実践上の課題を踏まえた上で授業参観を行う。「教職専門実習」での学びを生かし、「単元を通じた授業の指導計画と教材開発」を行い、そのうえで「学習指導案」を作成し「模擬授業」を実施する。「模擬授業」は受講生全員が行い、最後に「授業改善」についてグループワーク・全体討論などを行い自身の教科指導力の高度化を図る。 到達目標は下記のとおりである。 ・自身の実践上の課題を整理したうえで、自身の授業について理論的に分析できる。 ・単元を通じた授業計画づくりおよび教材開発と学習指導案づくりを行ったうえで模擬授業を行い、省察を行うことができる。また、理論に基づいた授業改善案を作成することができる。</p> <p>(33 福嶋祐貴・4 児玉祥一・105 森口洋一・35 佐伯卓也(実務家教員)・39 新谷幸三(実務家教員)) 全回を共同して担当する。</p>	<p>共同</p>
<p>中核教員・リーダー教員養成コース</p>	<p>今日の教育政策は、教育改革として、地方分権、規制緩和を軸に国民社会の変容に対応する公教育システムの転換を図るものとして展開されてきている。保護者や地域住民のニーズに応えるために、「開かれた学校」「特色ある学校」の実現、「学校の自律性確立」が課題とされ、学校経営を自律的に担うスクールリーダーの育成が求められている。教育改革の意味するものを明らかにし、自律的学校経営を確立するために必要な教育行政と学校経営の新たな関係について考察する。 教育政策の動向と教育行政・学校経営の課題について認識を深めることをテーマとする。到達目標は下記のとおりである。 ・教育改革の全体像について理解すること。 ・教育行政制度の全体構造と改革課題について理解すること。 ・学校経営の構造と改革課題について理解すること。 ・学校の権限、責任の観点から、教育行政、学校経営の改革動向について考察し、自らの見解を示すことができること</p>	
<p>学校・教員の裁量権と法的責任</p>	<p>学校教育に関わる法的問題を対象とし、その理解を深めるとともに、学校・教員の法的責任について適切に判断できる力量の育成を目指す。 到達目標は下記のとおりである。 ・学校教育に関わる法規に対する理解を深めること。 ・学校経営に必要な教育法規に関する基本的事項について理解すること。 ・学校経営における法的思考力について理解し、その力量を高めること。 ・学校、教員の裁量権について適切に理解し、その法的責任について判断できること。</p>	
<p>学校づくりとリーダーシップ</p>	<p>学校づくりに必要なリーダーシップのあり方に関して検討し、学校におけるリーダーシップの諸相を分析し、その実態、特質を浮かび上がらせるとともに、学校づくりを進めるうえで必要なリーダーシップ戦略を構想する。 学校づくりにおけるリーダーシップのあり方に関する理解を深めることをテーマとする。到達目標は下記のとおりである。 1. 学校づくりにおけるリーダーシップに関する理解、認識を深めること 2. 学校づくりにおけるスクールリーダー、ミドルリーダーの役割に関する理解を深めること 3. 「わたしのリーダーシップ戦略」を構想できる力量を身につけること</p>	
<p>学校組織改善の理論と手法</p>	<p>近代の学校制度とそこにおける教職と学校の組織特性について検討する。その後、学校の組織力を向上するためのリーダーシップの育成を目指して、組織論的な観点から勤務校を分析し、課題を明確化し、解決の方策を検討する活動を通して、学校組織を改善するための理論と手法を身につける。 到達目標は下記のとおりである。 1. 近代の学校と公教育制度の特質を理解し、それに基づいて学校改革を構想できる。 2. 学校組織の特質とそこから要請されるマネジメントの在り方について説明できる。 3. 組織改善のための様々な手法を理解し、状況に応じて活用できる。</p>	
<p>教職員の意識と成長</p>	<p>教職員個々の力を引き出すリーダーシップの育成を目指して、教職員に対するインタビュー調査を実施することを通じて、教職員の意識を理解し、その成長を促すための理論と手法を学ぶ。 到達目標は下記のとおりである。 1. 今日の教職員の意識と成長の課題について説明できるようになる。 2. 教職員の意識と感情に注目して、教職員の成長を促すリーダー行動を考案することができるようになる。 3. 質的データの分析、解釈の手法を理解し、基礎的な技法を習得する。</p>	









































